

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立四日市南高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		高い志と豊かな人間性を育てることを基本に、一人ひとりの可能性を引き出し、自己実現と進路実現を図る。
(2)	育みたい児童生徒像	○明確な目的意識を持ち、主体的・協働的に学び、学ぶ楽しさを感じながら互いに高めあっている。 ○ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、特別活動などに積極的に取り組むことを通して、豊かな感性や人権意識、他者への思いやり、忍耐力、コミュニケーション力、向上心などを身に付け、社会に貢献する意思と力を得ている。
	ありたい教職員像	○生徒が自己実現・進路実現を図ることができるよう、関心・意欲を引き出し、知識・技能を伝え、思考力・判断力・表現力を高める教育活動を展開するとともに、自らも学び続ける。 ○変化する社会情勢にアンテナ高く、自らのコンプライアンス意識を高めるとともに、地域及び家庭との連携を密に図り、信頼される学校づくりを実践している。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> ○すべての教育活動を通じての充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p><保護者> ○すべての教育活動を通じての子どもの充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p><地域> ○地域の諸活動への生徒の積極的な参加による地域の活性化と、それらを通じた地域の未来のリーダー育成。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> ○子どもの様子や進路情報等の積極的な発信。</p> <p><中学校> ○卒業生の様子、本校の教育活動、入試情報等の積極的な発信。</p> <p><地域> ○学校と地域が連携した諸活動への参加。防災面も含めた施設の有効活用。</p>		<p><保護者> ○教育活動への理解と協力。基本的な生活習慣の確立と家庭内学習環境の整備。</p> <p><中学校> ○生徒の基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立。生徒に関する情報共有。</p> <p><地域> ○本校活動への理解と協力、本校に不足する教育力の提供。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○新学習指導要領の円滑な実施と南高校の伝統である「開拓者精神」を大切にしながら様々な事に挑戦できる学びの継続。</p> <p>○個別最適化により大学入試改革にも対応できる「学力」の育成。</p> <p>○様々な課題を抱える生徒に対する支援体制のより一層の充実。</p> <p>○子どもたちの安全で安心な学校生活に向けての施設設備の改善。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○感染症対策を行いながら学校教育活動の平常化を進める。</p> <p>○教育活動全般にわたり真面目に取り組む生徒が多い。知識・技能と思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力等のさらなる伸長を図るため、個別最適化の学びを研究するとともに教科等横断的な取組を総合的な探究の時間を中心に構築する必要がある。</p> <p>○生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切にする教育等を通して、社会的スキルを有し、自他を大切に、互いを勇気づけられる生徒を育成していくことは、今後も重要課題の一つとして取り組んでいく必要がある。</p> <p>○人間関係上の課題、心身の成長にかかる課題等から特に配慮が必要な生徒に対して、教職員間および関係機関等との連携・協働のもと支援を行っているが、初期対応・早期対応を含め組織的な対応を一層進める必要がある。</p>	

学校運営等	<p>○ICTの利活用による教育活動と業務改善を進めるとともに、学習端末導入による保護者の負担軽減を図る必要がある。</p> <p>○教員の働き方改革、コンプライアンスの確保も急務かつ重要である。</p>
-------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○高い志の育成 各教科の学習等により将来を切り拓くために必要かつ重要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を身につけられるよう指導の充実を進め、高い志を育む。</p> <p>○これからの社会を生き抜く力の育成 学校行事、生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切にする教育、部活動等を通じて豊かな人間性を育み、知・徳・体の調和がとれた、これからの社会を生き抜く力を持った生徒を育成する。</p>
学校運営等	<p>○教育改革への対応 授業力・指導力等のさらなる向上に取り組むとともに、カリキュラムマネジメントの的確な実施を図る。</p> <p>○組織力の向上 コンプライアンス確保の仕組み作りと意識向上の醸成を進めるとともに、根拠なき前例踏襲に陥らない、新しい発想を大切にされた組織運営を推進する。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考												
高い志の育成	<p>1) 感染症対策を行いながら学校教育活動の平常化を進める。</p> <p>2) 「キャリア教育プログラム」に基づき、将来の日本や地域社会の発展に貢献し、知・徳・体の調和のとれた社会を生き抜く力と志を持った生徒を育成する。</p> <p>【活動指標】各学年年6回の個人面談の実施、定期的な進路説明会・講演会の実施。</p> <p>【成果指標】生徒の高校生活全般への満足度90%</p> <p>3) 総合的な探究の時間を核として、カリキュラムマネジメントや観点別評価により教科横断的な学習を推進し、思考力・判断力・表現力等をより広く、深く身につけられるよう取り組む。</p> <p>4) 文部科学省事業(教育課程実践検証協力校事業)を活用することで、主体的・対話的で深い学びやICT機器の効果的な活用等を強力で推進し、新学習指導要領の円滑な実施と授業改善を図る。</p> <p>5) 「予習→授業→復習」の学習サイクルに基づいた学校(授業)中心の学習習慣が定着するよう取り組む。</p> <p>【活動指標】生徒による授業等の評価の実施</p> <p>【成果指標】生徒の授業への理解満足度90%</p>	<p>【活動指標】</p> <p>各学年年個人面談 6回以上</p> <p>進路説明会・講演会 各学年で実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>高校生活全般への満足度 91.4% (7月調査) 93.4% (12月調査)</p> <p>【活動指標】</p> <p>アンケート評価の実施 (それぞれ観点の向上を感じている生徒の割合)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>7月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能等</td> <td>92.8%</td> <td>95.0%</td> </tr> <tr> <td>思考力等</td> <td>87.5%</td> <td>91.0%</td> </tr> <tr> <td>主体性等</td> <td>84.9%</td> <td>85.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【成果指標】</p> <p>授業への理解満足度 89.3% (7月調査) 92.6% (12月調査)</p>		7月	12月	知識・技能等	92.8%	95.0%	思考力等	87.5%	91.0%	主体性等	84.9%	85.7%	◎
		7月	12月												
知識・技能等	92.8%	95.0%													
思考力等	87.5%	91.0%													
主体性等	84.9%	85.7%													

<p>これからの社会を生き抜く力の育成</p>	<p>1) 「いじめ防止基本方針」、「命を大切に教育にかかると指導計画」及び「人権教育推進計画」等に基づく、確実な教育実践。 2) 不登校生徒や教育的に不利な環境のもとにある生徒に対して、初期段階から組織的・能動的な支援ができるよう、校内体制を整備するとともに必要に応じて外部人材や専門機関等と連携する。</p> <p>【活動指標】 各学期いじめに関するアンケートの実施</p> <p>【成果指標】 安心して学習できている生徒の割合 90%</p>	<p>【活動指標】 学期毎にいじめに関するアンケートの実施</p> <p>【成果指標】 安心して学習できている生徒の割合 97.4% (7月調査) 97.6% (12月調査)</p>	
改善課題			
<p>○感染症対策を行いながら学校教育活動を進め、前年度よりは平常化に近づいたが、まだまだ制限等も多く、平常化に向けて更なる改善等の取組が必要である。</p> <p>○主体的、対話的な学びや ICT 機器の効果的な活用を推進するなど、継続して授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>○不登校生徒や様々な課題を持つ生徒が多くなっているため、的確な対応や専門機関との連携など、学校組織として対応できるよう校内の体制づくりを進めていくことが重要である。</p>			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>教育改革への対応</p>	<p>1) 「総合的な探究の時間」と ICT の活用を一体的に担当する分掌を新たに立ち上げ、一人一台学習端末を踏まえた教育活動のあり方を探究学習と ICT の活用を統合的に捉えた視点から検討し、新学習指導要領の実践を推進する。</p> <p>2) 人権教育・特別支援教育・ICT・進路指導等に焦点をあてた現職教育を実施するとともに、教職員の専門性の向上を図るために、情報収集や校外研修に積極的に参加する。</p> <p>3) 保護者の負担軽減のために、教材等の精選と ICT の多面的な活用を行う。</p> <p>【活動指標】 各種現職教育の実施、校外研修への参加</p> <p>【成果指標】 保護者負担額 R02 比較で年 12,000 円減</p>	<p>【活動指標】 各種現職教育の実施 校外研修への参加</p> <p>【成果指標】 R02 入学生、R04 入学生の 1 年間の保護者負担額 23,525 円減</p>	
<p>組織力の向上</p>	<p>1) 教職員間の積極的な情報共有を進め、チーム学校として業務に取り組める体制・組織づくりを進める。</p> <p>2) コンプライアンスを確保し、地域・保護者から信頼される組織となるよう、「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組を進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退校日(月に1度)に定時退校できた教職員の割合 100% ・ 予定通り(週に1度)休養日を実施できた部活動の割合 100% ・ 放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合 90%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外勤務時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・ 時間外勤務時間が月45時間を超える教職員数の延べ人数 0人 ・ 1人当たりの月平均時間外勤務時間 30時間以下 ・ 1人当たりの年間休暇取得日数 10日以上 	<p>【活動指標】 定時退校 88.5% 部活動休養日 99.3% 60分以内会議 95.8% (4月~12月)</p> <p>【成果指標】 時間外勤務時間 年360時間超 21人 月45時間超 延べ129人 月平均時間外勤務時間 27.4時間 休暇取得日数 年次休暇 8.7日 夏季休暇 4.4日 (4月~12月)</p>	<p>※</p>

改善課題

- 新学習指導要領の実施、大学入試改革、教育の情報化等の教育の変化に対応できる体制づくりが求められる。
- 一人一台学習端末の有効な活用を推進し、ICT利活用を含めた教職員の専門性の向上を図る必要がある。
- 教職員の不祥事が問題視されており、引き続きコンプライアンス確保に向けた取組の継続が必要である。
- 教育活動の平常化に伴い時間外勤務時間が多くなる傾向となっているため、働き方改革を進めていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

- 主体的、対話的な学びや ICT 機器の効果的な活用を推進するなど、授業改善への取組が重要である。
- 不登校生徒への対応を含め、安心して学校生活ができる環境づくりを継続して推進する必要がある。
- 生徒の意欲、主体性を大切にし、教育の変化に対応できる体制を構築することが重要である。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

- 感染症対策を行いながら、学校教育活動の平常化に向けて更なる改善等の取組を進める。
- 主体的、対話的な学びや ICT 機器の効果的な活用を推進し、授業改善の取組を進める。
- 不登校生徒や様々な課題を持つ生徒の支援について、的確な対応や専門機関との連携など、学校組織として対応できるよう校内の体制づくりを進める。

学校運営についての改善策

- 研修の充実や情報の提供を進め、一人一台学習端末の有効な活用を推進し、ICT利活用を含めた教職員の専門性の向上を図る取組を進める。
- 新学習指導要領の実施、大学入試改革、教育の情報化等の教育の変化に対応できる校内の体制づくりを進める。
- 教員の働き方改革、コンプライアンス確保に向けた取組を継続して進める。